

航空従事者学科試験問題

資格	一等航空運航整備士（共通） 二等航空整備士（共通） 二等航空運航整備士（共通）	題数及び時間	20題 40分
科目	航空法規等 [科目コード04]	記号	CCCC0407B0

☆ 注意 (1) 「航空従事者試験問題答案用紙」（マークシート）の所定の欄に「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目」、「科目コード」、「科目コードのマーク」、「資格」、「種類」、「氏名」及び「生年月日」を記入すること。

「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目コード」又は「科目コードのマーク」に誤りがあると、コンピュータによる採点処理が不可能となるので当該科目は不合格になります。

(2) 解答は「航空従事者試験問題答案用紙」（マークシート）に記入すること。

☆ 配点 1問 5点

☆ 判定基準 合格は100点満点の70点以上とする。

- 問 1 航空法第1条に掲げられている事項で次のうち正しいものはどれか。
- (1) 航空法の目的
 - (2) 用語の「定義」
 - (3) 「航空法をここに公布する」の文言
 - (4) 「航空法をここに公布する」の文言及び施行の日付
- 問 2 航空法の基本的理念について次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 航空機の運航に関する安全の確保
 - (2) 航空機を運航する事業の合理的な運営
 - (3) 航空の発達
 - (4) 航空従事者の福祉の増進
- 問 3 航空法でいう「航空機」とは次のうちどれか。
- (1) 飛行機、回転翼航空機、滑空機、飛行船、気球、超軽量動力機及び宇宙船
 - (2) 飛行機、回転翼航空機、滑空機、飛行船、超軽量動力機及び宇宙船
 - (3) 飛行機、回転翼航空機、滑空機、飛行船、気球及び超軽量動力機
 - (4) 飛行機、回転翼航空機、滑空機及び飛行船
- 問 4 航空法で定義する「航空業務」の具体例として次のうち正しいものはどれか。
- (1) 航空整備士が運航中の航空機に乗務して行う外部監視
 - (2) 操縦士が地上整備中の航空機で行う無線設備の操作
 - (3) 航空整備士が確認行為を伴って行う発動機の運転操作
 - (4) 航空整備士が軽微な保守作業後に行う搭載用航空日誌への署名
- 問 5 航空法で定義される「航空従事者」である者の具体例として次のうち正しいものはどれか。
- (1) 技能証明はないが学科試験に合格し実地試験を申請中である者
 - (2) 航空工場整備士の資格を有する者
 - (3) 運航管理者の資格を有する者
 - (4) 技能証明を返納して1年を経過していない者
- 問 6 飛行規程の記載事項として定められている項目で次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 航空機の限界事項
 - (2) 航空機の性能
 - (3) 航空機の騒音に関する事項
 - (4) 航空機に発生した不具合の是正の方法
 - (5) 通常の場合における各種装置の操作方法
 - (6) 航空機の概要
- 問 7 航空法施行規則でいう「作業の区分」について次のうち正しいものはどれか。
- (1) 保守は、修理と整備に区分される。
 - (2) 保守は、修理と整備と改造に区分される。
 - (3) 修理は、保守と整備に区分される。
 - (4) 修理は、保守と整備と改造に区分される。
 - (5) 整備は、保守と修理に区分される。
 - (6) 整備は、保守と修理と改造に区分される。
- 問 8 一般的保守について次のうち正しいものはどれか。
- (1) 耐空性に及ぼす影響が軽微で、確認に動力装置の作動や複雑な点検を必要としないもの
 - (2) 簡単な保守予防作業で、複雑な結合を伴わない規格装備品の交換作業
 - (3) 軽微な保守以外の保守作業
 - (4) 簡単な保守予防作業で、緊度又は間隙の調整を伴わない部品の交換

- 問 9 航空機の登録について次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 国土交通大臣は航空機登録原簿に航空機の登録を行う。
 - (2) 航空機の登録は当該航空機について日本の国籍を取得した後に行う。
 - (3) 外国の国籍を有する航空機は登録することができない。
 - (4) 日本の国籍を有しない人が所有する航空機は登録することができない。
- 問 10 型式証明について次のうち正しいものはどれか。
- (1) 航空機の型式の設計について行う証明である。
 - (2) 航空機の製造方法についての証明である。
 - (3) 航空機個々の強度、構造及び性能が基準に適合することの証明である。
 - (4) 航空機が型式設計に適合していることの証明である。
- 問 11 耐空証明が効力を失うケースとして次のうち正しいものはどれか。
- (1) 耐空証明書を紛失したとき
 - (2) 抹消登録をしたとき
 - (3) 変更登録をしたとき
 - (4) 移転登録をしたとき
- 問 12 予備品証明の対象となる航法装置として次のうち誤っているものはどれか。
- (1) VOR受信装置
 - (2) 機上DME装置
 - (3) 慣性航法装置
 - (4) 方向探知器
- 問 13 整備又は改造をした航空機について行う航空業務として次のうち正しいものはどれか。
- (1) 航空法第19条第2項に規定する確認
 - (2) 航空法第19条第1項に規定する確認
 - (3) 航空法施行規則第19条第1項に規定する確認
 - (4) 航空法施行規則第19条第2項に規定する確認
 - (5) 耐空性審査要領第19条第1項に規定する確認
 - (6) 耐空性審査要領第19条第2項に規定する確認
- 問 14 認定事業場の種類（業務の能力）の数で次のうち正しいものはどれか。
- (1) 5
 - (2) 7
 - (3) 9
 - (4) 11
- 問 15 航空整備士についての技能証明を受ける要件で次のうち正しいものはどれか。
- (1) 年齢、整備経歴及び学歴
 - (2) 国籍、年齢及び整備経歴
 - (3) 国籍、整備経歴及び学歴
 - (4) 年齢及び整備経歴
- 問 16 実地試験に使用される航空機の等級が陸上単発ピストン機である場合、技能証明に付される等級限定として次のうち正しいものはどれか。
- (1) 陸上単発ピストン機
 - (2) 陸上単発及び水上単発ピストン機
 - (3) 陸上単発及び陸上多発ピストン機
 - (4) 陸上単発、陸上多発、水上単発及び水上多発ピストン機

- 問 17 搭載用航空日誌に記載すべき事項として次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 耐空類別及び耐空証明書番号
 - (2) 運航管理者の署名
 - (3) 航空機の製造年月日
 - (4) 航行目的または便名
 - (5) プロペラの型式
- 問 18 航空機を航空の用に供する場合に備え付けるべき書類として次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 型式証明書
 - (2) 航空機登録証明書
 - (3) 耐空証明書
 - (4) 運用限界等指定書
- 問 19 疲労、睡眠不足及び聴力低下をSHELモデルに該当させた場合、次のうち正しいものはどれか。
- (1) ソフトウェア (Software)
 - (2) ハードウェア (Hardware)
 - (3) ライブウェア (Liveware)
 - (4) 環境 (Environment)
- 問 20 人間の「記憶」には「短期記憶」と「長期記憶」があるが「長期記憶」の手法として次のうち正しいものはどれか。
- (1) 情報を要約したり系統化して重要な項目を強調する。
 - (2) 情報の最初の項目を強調する。
 - (3) 情報全体を数秒間にわたって暗唱する。
 - (4) 単数字6個程度は自動的に長期記憶となるので特別な手法は要しない。